令和6年度柏市少年補導センター運営協議会会議録

1 日時

令和6年5月21日（火）

午前10時5分～午前11時10分

2 場所

千葉県柏市大島田48番地1

柏市役所沼南庁舎5階501会議室

3 出席者

(1) 委員

中村委員，押味委員，伊藤（嘉）委員，中川委員，荒井委員，門井委員，鴫田委員，成嶋委員，田口委員，上坂委員

(2) 事務局

田牧教育長，福島学校教育部長，石井少年補導センター所長，麻生同指導主事，八巻同副主幹

4 議事前の進行

(1) 委嘱状交付

(2) 教育長あいさつ

(3) 委員及び事務局職員の紹介

(4) 会長あいさつ

5 議事及び意見交換

(1) 令和5年度事業報告

ア 麻生指導主事から，令和5年度柏市学校警察連絡協議会生活実態調査の結果を以下のとおり報告した。

- ・ この調査は令和5年10月から12月に実施されたもので，市内全小中高等学校へ依頼をし，小学校40校，中学校23校，高等学校12校の計75校から回答をいただいた。
- ・ 小学4年生のスマートフォン所持率は，過去3年間で35%，36%，37%と推移している。
- ・ 小学6年生は昨年度初めて60%という結果になった。
- ・ 中学2年生は初めて90%を超え，一段と所持率が高くなっている。

- ・ 高校2年生は従来型の携帯電話を含めるとほぼ100%で定着している。
- ・ スマートフォン持ち始め時期について小学校6年生の回答では、小学校5年生から小学校6年生にかけてが年々減り、小学校4年生からが年々増えている。
- ・ 中学校2年生の回答では、小学校6年生から、次いで中学校1年生からという回答が多い。
- ・ 高校2年生の回答では、中学校1年生又は高校1年生という回答が多い。
- ・ 依然として、中学校卒業や高校入学のタイミングでスマートフォンを持ち始めることが多くなっている。この時点で情報モラル等を指導することが非常に重要になると考えている。
- ・ 令和5年度に、携帯電話スマートフォンを使っていて仲間外れになったことがあるかという質問を設定した。
小学校6年生では8%、中学校2年生が15%、高校2年生が2%あると回答があった。
- ・ 会ったことのない人とネット上で親しくなったことがあるかという質問に対して、小学校6年生では14%が親しくなったことがある、その10%（全体の1.4%）は実際にあったことがある、と回答があった。
- ・ 中学校2年生では22%が親しくなったことがある、その18%（全体の3.96%）は実際にあったことがある、と回答があった。
- ・ 高校2年生では25%が親しくなったことがある、そのうちの42%（全体の10.5%）は実際にあったことがある、と回答があった。
- ・ 続けて、実際に会ったことを保護者は知っているか質問したところ、小学校6年生では90%、中学校2年生では71%、高校2年生では64%が知っていると回答した。
- ・ 知らないという回答には不安を抱く。一方、知っているという回答に関して、保護者はどういう考えで会うことを事前許可したのか、あるいは事後報告で知ったのか。

いろいろなケースがあると思われ、こちらにも気になる回答結果となっている。

- ・ 実際にあった相手の年齢は何歳かという質問には、小学校6年生、中学校2年生、高校2年生のいずれも、同年代と会ったという回答が多くなった。

同時に、自分の年齢よりも年上の人と会っている子どもたちが一定数いることも分かる。

- ・ 令和5年度に、なぜネット上で知り合った人に会おうと思ったか、という質問を新しく設定した。
- ・ 回答で多いのは、「友達の友達」「遊んでみたいと思った」「危険は感じなかった」。
- ・ その他の理由として、「趣味やゲーム」「ライブやイベント（いわゆる推し活と呼ばれるもの）での約束」が見られた。
- ・ 一方で少数派だが、「相談したいことがあった」「頼れる人が欲しかった」のように、精神的安定を求めていると考えられる回答も見られた。
- ・ 続いて、実際に会ってみてどのように感じたかという質問についての回答は次の通り。

会ってよかったの回答が、小学校6年生が79%、中学校2年生と高校2年生は、いずれも80%を上回った。

嫌な思い、不快な思いをしたという回答は小学校6年生で2%となっているが、回答者数だと1名である。

高校2年生も1%となっているが、回答者数だと1名であった。

- ・ 会ってよかったと思う理由については、「相性が良かった」「性格が合った」「趣味が同じで楽しく過ごせた」「グッズを交換できた」との回答が多くあった。
- ・ 一方で、「普段は表に出せない悩みを打ち明けた」「リアルな友達よりも楽しく過ごせた」「学校では、話せないような共通の趣味を持つ人と知り合うことができた」「悩みを相談できる大切な人が増えた」等、日常の学校での人間関係では表現したり伝えたりできないことを、ネット上

の繋がりや相手の相手とはできた、という回答があった。

また、嫌になったらすぐ関係を切ることができるという回答も見られた。

- ・ 嫌な思いや不快な思いをした理由については、小学校6年生の1名から、煽られたという回答があった。また高校2年生の1名から、ボディタッチが多くて気持ち悪かったという回答があった。
- ・ SNS利用による人と人との繋がりの中で、トラブルや犯罪被害に巻き込まれること、逆に闇バイトや特殊詐欺等に関わって意図しない状況で加害者となること、の懸念を抱いている。
- ・ ネットの世界はリアルな世界よりも関係が見えにくく、繋がりやその範囲やその速度も実態把握が非常に難しい。
また薬物等の有害情報についても、ネット上で触れることで非行の問題に発展していくことが考えられる。
- ・ 非行の問題は、繁華街や路上でのものと、ネット上のものと、双方に対応が必要であると、強く感じる。
- ・ 学校警察連絡協議会の生活実態調査は、毎年実施しているものである。貴重なデータとして、非行防止や情報モラルの指導啓発に引き続き活用していきたいと考える。

イ 麻生指導主事から、令和5年度に少年補導センターが行った補導、相談、啓発及びサイバーパトロールの実施結果を以下のとおり報告した。

- ・ 補導活動として、令和5年度に361回街頭補導を実施した。補導少年数は364名で、令和4年度の384名と比べると20名減となった。
- ・ 補導対象行為は怠学が多く、178件。また喫煙は32件で、令和2年度からの推移は、令和2年度が6件、令和3年度が18件、令和4年度が63件である。
- ・ 年齢別に見ると、16歳から18歳は高校生の怠学が高い割合を占めている。
- ・ 14歳未満の補導対象行為は、小学生がゲームセンターに保護者同伴なしで入店していることが主な内容である。

- ・ 行為場所別に見ると，路上，ゲームセンター，柏駅周辺が多い。
- ・ 居住地別では，柏市の他，県内各地そして県外からも子供たちが柏に来ている。

怠学の子供たちに声を掛けると，どうせ遅刻だからと急がない様子であったり，柏駅まで来たけれどちょっと足が進まない感じを受けた。
- ・ 月別の補導状況は，6月，9月～11月の補導件数が多く，これは例年と同じ。

特に進路が決定した高校生が，秋頃から遅刻が多く見られる傾向がある。
- ・ 各中学校区の少年補導委員は地元で補導活動を行っており，令和5年度は延べ372回の地区補導を実施した。
- ・ 相談について。専門相談員によるやまびこ電話相談柏への相談が，前年度から32件増えて179件となった。

指導主事による少年相談は，前年度から2件減り81件となった。内容は多岐に渡り，状況に応じて関係機関と連携して解決を図った。
- ・ やまびこ電話相談柏の相談者別では，小学生3件，中学生48件，高校生70件，保護者46件である。

男子は，依然として特定の少年から性に関する相談が多くあり，次に学業進路，家庭親子関係となっている。女子は，家庭親子関係と学業進路が多い。

少年相談の相談者別では、学校からの相談が最も多い。内容は，被害が20件，問い合わせが13件，性に関する相談が8件。
- ・ 啓発講演については，情報モラル教育や薬物乱用防止等の内容を中心に、年間102回実施した。ほとんどは学校からの依頼であり，学年別や学級別，対面やオンラインで実施した。

手法として，SNSについて身近で起きている事例や報道等に取り上げられてる内容を紹介したり，学校警察連絡協議会での生活実態調査等を活用した。

- ・ サイバーパトロールについては，対応の必要度を３段階にレベル分けをしている。

レベル１に分類される，個人をほぼ特定できる登録アカウントの発見は，市内小中高校生のものとして１，１７０件を把握している。

レベル２に分類される，誹謗中傷の書き込みや自他個人情報公開の公開は，１１件を確認して当該校に連絡し指導改善を図った。

レベル３分類される，自殺企図等の危険な状況の公開は０件であった。

ウ 委員からの質問・意見はなかった。

エ 議長から，以上の説明で令和５年度事業報告として良いか発議があり，全会一致で承認された。

(2) 令和６年度事業計画

ア 石井所長から，令和６年度事業計画として活動の方針及び内容を以下のとおり説明した。

- ・ 活動方針について。少年補導センターは，青少年の健全な育成を期し，少年の補導活動を総合的に推進するための拠点である。そのため，補導活動、相談活動、環境浄化活動，広報啓発活動を積極的に展開し，非行の未然防止に努める。

また関係団体，関係機関と連携をしながら，地域ぐるみの非行防止活動の推進を図る。

- ・ 活動内容は，重点項目を中心に説明する。
- ・ 補導活動の充実について。問題行動の早期発見及び早期補導，愛の一声として毎日地道に補導活動を行っていく。
- ・ 少年補導センターと少年補導委員で行う柏駅前の街頭補導は，水曜日を除く週４日の午前，午後，または薄暮に実施している。加えて，月に３回，夜間パトロールも行っている。
- ・ 平成２０年度以降では，２２年度の１，３７５件をピークとして，平成２７年度は資料にある通り１９８件まで減少した。

その後、平成28年度は246件、平成29年度は271件と、一時的に増加し、平成30年度は239件と、再び減少に転じた。

令和元年度から令和4年度までは年間300件台で推移し、令和5年度は364件となった。

- ・ 柏駅周辺の店舗の様子やゲームセンターの雰囲気は以前と違ってきている。また旧そごうの再開発等もあり、柏駅周辺の景色も変わって、子供たちの動きや流れも新たなものになることが今後も想定される。

引き続き関係各機関から情報共有を図りながら、地道に愛の一声活動を行っていく。

- ・ 地域の補導においては、各中学校区の少年補導委員が、地域の実情に応じた補導活動を行っている。

少年補導委員連絡協議会と連携して、地域の行事等に合わせ、子供たちの見守りに適した活動が実践されるよう努める。

- ・ 別に特別補導として、広域列車補導、卒業式での見守り、夏休み、冬休みに際して計画を立て補導活動をしている。
- ・ 問題事案が発生した際は、学校等へ迅速に通報し連携をとって対応する。
- ・ 相談活動の充実は、今年度の重点項目としている。温かく適切な指導助言に努め、各種相談に取り組む。
- ・ スマホ、SNS、ネットでの被害やトラブルの相談が多くなっているので、丁寧に対応する。相談内容や思想を的確にとらえるためにまずは傾聴する。
- ・ 電話での相談が基本だが、相談者や相談対象者が安定して問題解決に進めるように、状況に応じて対面相談を定期的に実施することも行う。関係機関につなぐことも柔軟に対応する。
- ・ 関係団体、関係機関との連携強化について。

少年補導センターは、少年補導委員連絡協議会と学校警察連絡協議会の事務局を担っている。

それ以外にも柏警察署、柏児童相談所をはじめ様々な関

係機関と連携することで、効果的な活動推進を図る。

協力を得ることで、顔が見えて横の繋がりを大切にした多角的な対応を行い、青少年の非行防止に繋げる。

- ・ 研修の充実について。

先の4月20日、少年補導員連絡協議会定期総会に合わせて、少年補導委員の業務について研修会を実施した。

少年補導センターの事業や青少年に声かけする際の注意点について、確認をさせていただいた。

また学校警察連絡協議会においては、視察研修や情報交換会を予定している。

- ・ ここ数年はコロナの影響もあり、オンラインツールを駆使して研修や情報交換を行っていた。

しかし各学校各地域において、お互いの顔が見えそして安心できる関係を再度構築することは重要と考える。

そのため、子供たちの指導に生かすことを狙いとして、昨年度から実際に顔が見える形で行っている。

- ・ 職員の資質向上について。

青少年が利用するSNS等については、利用者の秘匿性が年を追う毎に高まっており、問題書き込みの特定が困難なケースが見られる。

令和3年度から着手した事例研修を今後も継続し、職員のスキルの平準化を図る。

- ・ 環境浄化活動の推進について。

補導活動と同時に有害環境の実態把握に努める。

ゲームセンター等の協力をいただきながら、たまり場の健全化を図る。

有害チラシの撤去は各地区で実施しており、今後も少年補導センターとして協力していく。

路地裏等に改造した車両等の放置落書きなどが散見されている場合の対応として、交番等への情報共有や巡回依頼等を行う。

悪い環境の常態化により非行を誘発することが懸念されるので、補導や巡回を通じて得た情報を共有して環境浄化

につなげたいと考える。

- ・ 広報啓発活動の推進について。

児童生徒，P T A，教職員，地域活動，地域団体等への啓発活動を，昨年度は102件実施した。

- ・ SNSの利用による人との繋がり，リアルな世界での不満解消，精神の安定，これらをバーチャル世界に求めて，承認欲求を満たそうとする青少年の実態が見られる。

本来は不要な繋がりから，犯罪被害に遭ってしまうことや，気づかないうちに闇バイトや特殊詐欺等に加担することが想定される。

これを防止すべく，多方面においてデジタル化が推進されていることを踏まえて，ネットトラブル被害防止のための情報モラル講演や、薬物乱用防止講演を継続する。

- ・ 広報資料として、月報すこやかにを本日配付している。毎月の補導啓発状況につき情報発信をしていく。

発信は紙媒体で継続しているが，柏市の公式ツイッターにて少年補導センターのアカウントからも発信している。

時代に即して今後も内容を検討していきたい。

- ・ 情報収集及び資料の整理と活用について。

各活動また関係者を通じて提供を受けた情報を収集整理し，必要に応じて情報提供していく。

不審者情報の共有により，子供たちの地域の見守りにつなげていきたい。

サイバーパトロールを継続して実施する。SNSの流行も変化しており、最新の動向を注視しつつ実施方法を検討していく。

不適切な書き込みや画像、動画、違法行為被害の可能性が考えられる書き込みについては，学校への通報を迅速に行い，問題行動やトラブル等の未然防止，早期発見から問題解決につなげる。

イ 質問・意見は次のとおり。

- ・ 中村議長の質問

情報モラル教室を受けた子供たちからの感想は収集して

あるか。

- ・ 麻生指導主事の回答
全校ではないが、講演後に振り返り用紙として記入提出を受け、今後の指導に活かしている。
- ・ 中村議長の質問
喫煙がまた少し出てきているようだが、今の子は電子タバコも吸っているのか。
- ・ 麻生指導主事の回答
電子タバコと紙タバコの両方が報告されている。
- ・ 石井所長の意見など
教職員向け研修を通じて、非行の未然防止に対する心構えや生徒個人と対応する際のスキル向上を目指す。
日々の生徒との接触は、やはり担任が一番多い。教科と合わせて非行でも生徒を指導してもらい、非行を防いでいきたい。

ウ 議長から、以上で令和6年度事業計画として良いか発議があり、全会一致で承認された。

(3) 意見交換

- ・ 鴫田委員の意見など
P T Aを取り巻く環境がすごくこの何年かで変わっている。コロナの影響が非常に大きい。
連絡をネットで済ませて膝を突き合わせて話す機会がすごく減っている。そうすると、子供たちだけではなく大人も十分なコミュニケーションが取れない。
そのうちに、P T Aの活動は任意だボランティアだということで、やらなくていいことはやらないと省くようになってくる。
私からすると、何かにかこつけて自分たちがやらないように楽が出来るようにという目的で変えてしまってるような感じがして、非常にやりにくい。
P T Aがなくなった学校もある状況で、どうやって子供たちの環境を整えていけばいいのか、悩ましい。
- ・ 中村議長の意見など

少年補導委員の委嘱替えで、推薦される方が締切日時点で定員に70人位不足していたと聞いている。

以前もあったが、少年補導委員が学校に認知されていない、学校から推薦されるときに聞いた活動内容と違うと新任者に言われる。

さらには、青少年相談員の中川さんと話したんですけども、相談員になったのはいいけどすぐ辞めてしまうこともあるとのこと。

学校と地域が連携して子供を育てましようというのを、活動出来る方にお任せで、と考えている保護者の方がいるのか、自分たちは忙しいし会議も大変、という言葉が前面に出てくる。

それで本当にいいのって思うことが結構ある。子供たちのために、幾らかでも汗をかきながら皆で見守っていくのが本来の親の姿じゃないかと思ったりするのだが…。

- ・ 新井委員の意見など

中村さんとか私たちは、学校で焼きそばを1,000食ぐらい焼いた世代。それぐらいの活動を今のお父さんお母さんも、とは言えないのが難しいところ。

青少協は元々が学区単位で、市内21中学校を中心に校区内の小学校とも繋がっている。

その小小連携、小中連携、地域連携で青少年健全育成活動をしているが、皆さんが「自分のことで精一杯」「今年で終わり」「同じ学区の他校に関わるどころではない」という言葉や雰囲気を出しているのを肌で感じる。

これからは、イベントや活動を、更に時代の流れに合った形で行うことになるだろうと感じている。

- ・ 押味委員の意見など

民生委員を20年近く続けている。学校から問題家庭のお子さんの案件等を相談されることが多い。

以前は本当に大変で、関係機関の方々と連携して地域の子供たちを見守ってきた。

今はそういう大変なお子さんの相談件数は少ないが、相

談にのぼってこない実は問題を抱える家庭がどう生活しているか心配な点は多々ある。

今の問題家庭のお宅は重層的で、精神的に病んでる保護者の方が大変多く、かつお子さんも精神的に問題を抱えているということがしばしば。

そういう子供たちをどのように地域で育てていくか。私の住む地域はふるさと協議会もコミュニティスクールも活動が大変活発。私自身は土小学校を拠点としている。

高校を含めて皆さんと連携が出来ていて、保護者の方は地域が助けてくれると強く感じてくれる。子育てサロンも立ち上げから20年ぐらい経ってその時の子供たちが20歳以上になり、忙しい中で地域に戻ってくれている。

地道に連携をしながら地域の子供たちを見守っていただけるといいと感じている。

- ・ 成嶋委員の意見など

保護司は、法務省から委嘱された準公務員。罪を犯して償った人たちの更生を担っており、自分の家に来てもらい面接をする等している。

昔は皆さんに目立たないような存在で活動と言われたが、今は社会を明るくする運動等もあり、外にアピールするようになってきた。皆さんに知っていただいて、地域全体で罪を犯した人たちの将来を少しでも良くしようという方に変わってきている。

私に関わった案件で、鑑別所から出た中学生に対する学校の接し方に、「もっと長い目で見て欲しい」と感じるものがあつた。

これからは、皆さんと保護司との連携がすごく大事になってくる。もうちょっと大きな目で子供たちを見たら、もっと非行が減るのではと感じた。

- ・ 中村議長の意見など

子どもが鑑別所を出た後、再発防止のことを考えるとやっぱりその地域としてどう受け入れていくか。

あんなやつが戻ってきたじゃなくて、ある程度温かい目

で見守ってというその土壌づくりがもう随分前から言われてるが、それが進んでいないのが現状。

- ・ 田口委員の意見など

主任児童委員をやって8年以上経つが、お父さんお母さんの精神的な弱さを痛感している。

大人なのに大人じゃないみたいな感じの保護者がすごく多くて、こちらがいろいろ動くことが増えてきてしまっている。

P T Aの仕事に関してもすごく幼稚な考えで、誰かがやってくれるだろうとか、自分のことだけって考えてるやつが多いと言うけど、他のことなんて考えてられないよね、という本当に幼稚な話を聞く。

非行も若年化がすごく進んでいるかと思うんですけど、私たちは小学生のうちから何とかしたい。

そこで、非公開の子供食堂や不登校のお母さんお父さんたちのカフェをやっている。

子供を育てる保護者のメンタルを考えてあげることで、非行が少しでも減るんじゃないかと体感している。

6 傍聴者

なし

7 配付資料

(1) 次第

(2) 委員及び事務局員名簿

(3) 令和5年度年度事業報告の説明資料

(4) 令和6年度事業計画の説明資料

(5) 令和6年度柏市少年補導センター活動要覧

(6) 少年補導センターだより「すこやかに」令和6年4月号，令和6年5月号